

マガノ使

平成 15 年 1 月 1 日発行

弓削野鳥の会編集発行

新年あけましておめでとうございます



未年が良い年でありますように



例年になく寒い新年を迎

え会員の皆さんはいかが

お過ごしでしょうか。昨年

は日本いや、世界的に暗い

ムードの1年でした。今年

こそ、暗いムードを一新し

て、いい年にしたいものです。弓削野鳥の会も発足以来6年目を迎

えました。昨年から自主活動ということではじめましたが、その辺

で皆さんには大変ご迷惑をおかけしています。今年もご指導ご鞭撻

のほどよろしくお願ひします。(写真は三山で撮影したルリビタキです。)

さて、近年、自然環境も野鳥にとっても非常に厳しい環境になり

つつあります。年々生物の絶滅危惧種も増えており、私たちバード

ウォッチャーにとっても寂しい限りです。日頃から私たちも地球環

境にやさしい心、優しい環境づくりを考えて行動しましょう。ちょっとした心づかいが生物の絶滅防止への一助になるかもしれません。

マナーを守って野鳥や自然に迷惑をかけないようにしましょう。

フィールドマナー やさしいきもち

や 野外活動、無理なく楽しく

さ 採集は控えて、自然はそのままに

し 静かに、そーっと

い 一本道、道からははずれないで

き 気をつけよう、写真、給餌、人への迷惑

も 持って帰ろう、思い出とゴミ

ち 近づかないで、野鳥の巣



カワセミとの初めての出会い

谷井 宜子

ご無沙汰をしております。お元気ですか？ 突然ですが私の感動を皆さんにお伝えしたくてお手紙をだしました。今年も後 1 日という



12月30日、小春日和に誘われて近くの古利根川へカモでも見てくるかと出かけました。土手を歩き出してまもなく大声で「カワセミ」と叫んでいま

ました。まさにカワセミです。コバルトブルーの背にオレンジ色の腹

部はいつも本で眺めていたのと同じです。初めての出会いです。川岸の枯れたカヤに止まり、しばらく姿を見せてくれました。そのあと、飛んで行ってしまったのですが、なんとその茂みからもう1羽出て来たではありませんか。もっともっと濃いブルーの宝石のような輝きのあるカワセミです。こんな喜びと感動が今年の締めくくりとなりました。最後になりましたが、今年が皆様にとって良い年でありますよう心よりお祈り申し上げます。それではまた

逢うということ (バードウォッチングの楽しみ方「パート3」) 平山和昭

逢ひみての後の心にくらぶれば昔は物を思はざりけり

いわずとしれた恋の歌で歌意はいまさら言うまでもないだろう。一つコトが進めばそれはそれでまた新たな悩みが発生する・・・といったところかな。鳥見の楽しみ方はいろいろあるだろうが、「見る楽

しみは見られる楽しんでな？と思う向き
い。ところが、我々がら、実は「人見」



しみ」といえば、はもあるかもしれな
は「鳥見」に行きな
をされているので

はないかといえ、もしかすれば経験ある人には思い当たる節があるだろう。つまりこういうことだ。我々が小鳥に興味があるように、小鳥の側にも人に興味があるのではないだろうか？経験的にいえば、

今日この鳥に逢いたいと出かければ 10 中 8, 9 その願いは叶ってきた。雀とか頬白とか、あるいは鳩とかヒヨドリのように、そこらにいつでもいる鳥ならいざしらず、夏鳥とか冬鳥とかのように、季節の推移に従う鳥は、少なくとも弓削ではその数が多いとは言えない。そういう種類の鳥に逢いに出かけ首尾よく逢えるというのは、ものすごく僥倖な筈である。そんな僥倖に軽々逢えてしまうことが多い



のはなぜか。「相手が逢いに出かけてくれる」からではないか？たとえば今の時期ならルリビタキなど、どう考えても相手がこちらを見定めようと目

の前に出現しているとしたか思えない行動をとる。一冬と言うつかの間の宿りとはいえ、自分の縄張りである林の闖入者をひとめ見んとてか、わざわざ目の前の枝に姿を見せるのだ。そして現われたり消えたりしながら当分の間つきまとう。似たようなことは他の鳥にもいえる。この地球上に人間だけが特別な高級生物としてあるわけではなく、人間も単なるウォッチャブル（被観察物）な存在としてあらゆる生き物との間にいるのだと考えるべきではないのかなと、ふと思ったりもする。平和裏に向き合う気持ちがおのずから打算とか

殺気とかを消しそうになればこそ、只の一個の存在として動き回る
ことにも野生の鳥に警戒感をもたせないでいるのではないか・・・
とも。逢いたいと逢いに出かけ、相手も逢いに出かけてくれる関係
こそ至福のバードウォッチングの楽しみといわざるを得ない。それ
は恋の成就にも似て・・・というのはちと言い過ぎかな？

あひ見ればつぶら瞳のことのほか吾愛でるがに鳥がまなざし（和）

南シナ海の宝石(part 3) 松本敏和

翌日半日かけてシンガポールに渡り市内観光の途中でやたらと目
につくムクドリのような鳥（全体は灰色で翼を縁取るように黒く翼
を広げると下面に白い大きな斑が目立つ）や鳩、足の長いヒヨドリ、



ツバメ、ホオジロの似た鳥たちが私を
楽しませてくれる。その数は熱帯雨林
のジャングルよりも視覚的には数多
く感じる。これも捕食者から逃れるた
めに隠れる必要もあまりなく、まちの

あちらこちらに公園や街路樹があり、鳥にとっても住みやすい環境
のためだろうか。終日フリータイムとなるシンガポール 2 日目は、
亜熱帯特有のシダ植物などが見られるギンガーガーデン植物園、海
藻にそっくりな珍魚リーフィシードラゴンで有名なアンダーウォー

ター・ワールド、シンガポールが一望できるマーライオンタワーなどを見学する。ここでは、手軽にまじかに数多くまた珍しい動植物が観察できるが、ジャングルの中で野生の動植物を観察できたとき

のような感
やはり味わ
夜、深夜発の
の間、94年5
以来大盛況
アリへ出か



動や満足感は、
えない。最後の
フライトまで
月にオープン
のナイトサフ
ける。ここでは

トラムと呼ばれる窓もない風通しの良いオープンな車に乗って、動物たちの夜の生態を観察できるし、時間をかけて徒歩で回ることも出来る。世界でも類をみない「ナイトサファリ」では、アフリカ、南米、アジアなどに生息する約 1000 頭の夜行性の動物を周りを湖で囲まれた 40 ヘクタールの広大なジャングルをヒマラヤ丘陵、ネパールの谷、インド亜大陸、アフリカ赤道付近、インドネシア／マウロ地域、アジア河川地域、南米草原地域、ビルマ丘陵の 8 つのゾーンに分けてあらゆる動物が夜のジャングルの中での生活を自然に近い状態で見させてくれる。ここでのルールは、サンハンジカやホックジカなどの動物がトラムの前を通過する時には、トラムは一旦停止

して動物が通過するのを待つことなど動物がすべて優先である。トラムの中で日本語の案内に従い首を右へ左へを繰り返して多くの動物を見ようとするのだがトラムの中は比較的明るく動物の居住区の照明は出来る限

るので動物の判別するのがそれでも、湿度と静けさ



り暗くしてありシルエットを精一杯だった。んやりとしたが30分程前に

いた大都会シンガポールの喧噪を忘れさせ、背の高い樹木や幾重にも重なるシダ類など、うっそうと生い茂る暗闇のジャングルの世界は幻想的な気分を味あわせてくれる。(to be continued)

探鳥例会情報

弓削野鳥の会

☆ 10月27日 佐島宮ノ浦池・西辺方面

参加者：松本敏和、松本純一、松本祐子、角濱光一、平山和昭、山田次郎、村上尚

※ 観察した鳥：ヒヨドリ、セグロセキレイ、トビ、ホウジロ、モズ、カイツブリ、ダイサギ、カルガモ、バン、ゴイサギ、アオサギ、ジョウビタキ、メジロ等

☆ 11月17日 深坂池

参加者：松本敏和、坂本洋子、角濱光一、山下みさよ

※ 観察した鳥：カイツブリ、アオサギ、カルガモ、イソヒヨドリ、ムクドリ等



☆ 12月15日 三山・大谷方面

参加者：岡村美恵子、坂本洋子、角濱光一、平山和昭、村上尚

※ 観察した鳥：アオジ、ノスリ、アオサギ、イソヒヨドリ、モズ、メジロ、ジョウビタキ、ヒヨドリ

今後の探鳥会の予定 ※雨天の場合は中止といたします。

1月19日(日) 町外遠征(松永湾・笠岡干拓地) 公民館7:00集合

2月16日(日) 佐島(西辺方面) 春を探そう

3月16日(日) 三山周辺

※最近特に集りが少ないようですが、従来のように個別の通知はいたしません。予定どおり活動計画に基づいて活動いたしますので、各自カレンダーなり、予定表に記入の上チェックしましょう。なお、計画の変更等が生じた場合は、ミサゴ便り等にて通知いたしますのでご了承願います。(詳しい問い合わせについては事務局まで 77-3607へ)

1月19日のバードウォッチングにつきましては、当初1月26日の予定で計画していましたが、県知事選挙の関係で1週間早く実施することとなりました。

1月19日の町外遠征についてですが、車の手配の関係もありますので、1月10日までに参加される方はご連絡ください。(77-3607へ) 負担金は1,000円程度を考えています。弁当については各自持参か、コンビニで購入することも出来ます。(雨天の場合は中止します。)

(日程) 公民館集合(7:00) ⇒ 上弓削港(7:30) ⇒ 家老渡(7:40)

午後4:00頃には帰る予定です。(場所:松永湾と笠岡干拓地へ)